

R-2 : 専門会員セッション

開催場所 9月19日（水曜日）15:50-17:20 国際会議室（3階）

EARMA Session / SDGsとグローバルな課題解決に向けた 日欧URA国際協力のシナリオ

■本セッションの目的・SDGsという地球規模課題の解決には、日欧双方の国際協力が必須である。・その中で日本のURAが独自・個別の活動だけでなく、EARMA(またRMAN-J)との関係を保持・利用することによって、日欧研究連携強化に向けた新たな展開の途を見出していくことを目的とする。■内容(0)司会者からこれまでの経緯と本セッションの目的の説明(5分)(1)EARMA代表の招待キーノート・スピーチ(20分) ①EARMAのミッション、欧州の研究動向 / FP9の方向性等 ②EARMAと欧州各大学との関係③EARMAはRMAN-J及び、日本の大学とどう付き合いたいか、具体的案は？(パネルディスカッション)(2)在日欧州代表部(欧州連合政府機関の代表)の報告(10分) ①SDGsの目標に向けて、欧州の強みは何か、②その強みをさらに活かすために、欧州は日本とどう交流・連携すべきか ③その中で、日欧双方のURA団体、及びURA個人には何を期待するのか(3)JST(日本政府機関の代表)の報告(10分) ①SDGsの目標に向けて、日本の強みは何か、②その強みをさらに活かすために、日本は欧州とどう交流・連携すべきか ③その中で、日欧双方のURA団体、及びURA個人には何を期待するのか(4)各大学URA(京大、阪大、広大、早大、神大)からの報告(10分) ①EARMAを通じた国際交流の取組事例 ②今後、EARMA(及びRMAN-J)との関係において、やってみたい事 など(5)ディスカッション・質疑応答(33分)(6)締め(2分)

ー2019EARMA開催(ポローニャ)のお知らせと参加のお誘いー

オーガナイザー

富田克彦:

神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部 シニアURA特命教授



社会実装デザイン部門 超スマートコミュニティ推進室長、シニアURA・特命教授、博士(創造都市)。松下電器産業(現パナソニック)でeコマース事業カンパニー社長、ネット家電プラットフォーム開発センター所長として松下の新規事業であるネットワークサービス事業を担当。総務省、経産省の情報家電セキュリティ研究会の座長、委員を歴任。JSTにてサイバー攻撃対策を担当後、神戸大学に赴任。現在、神戸市のスマートシティプロジェクトを展開中。

ベーリンクリスチャン(Bering Kristian):

大阪大学 経営企画オフィス 特任学術政策研究員



コペンハーゲン大学卒(日本学専攻、修士(2001年)、SOASロンドン大学博士課程満期退学(日本文学、2015年)。1992-96年・2004-6年は京都大学国語国文学研究科研究生、2002-4年は同志社大学国文学科特別交換留学生。職歴: Copenhagen Business School(DK)勤務(1996-97年)、BT社勤務(UK)(2000-2年)等。立命館大学のARCで出版文化財のデジタル化関連勤務(2008-9年)等。2009年から大阪大学産学連携本部の産連コーディネーター。2013年より現職。主に国際共同研究立ち上げ支援関連業務に携わる。

R-2 : 専門会員セッション

講演者



Nik Claesen :
European Association of Research Managers and Administrators Managing Director

EARMAのManaging Directorとして、研修の機会や好事例・情報の交換等を促進するネットワークを構築し、欧州全体の研究支援体制の質向上を図っている。EARMAに勤務する以前は、研究の管理運営の実践的な経験を有しており、ブリュッセル自由大学(VUB)ではEUからの研究資金獲得を担当。インペリアル・カレッジ・ロンドンでは申請コンサルタントとして活躍した。経営学および歴史学の修士号を保有。ブリュッセル広域圏在住のベルギー人。



市岡 利康 : 科学技術振興機構 国際部 上席主任調査員

大学院在学中より、CERNでの共同研究に参加、学位取得後に渡欧し、デンマーク、ドイツ、ラトビアにて研究した他、スペインではEUのフレームワークプログラム(FP)のプロジェクトマネージャーとして勤務。帰国後、日欧産業協力センターでも引き続きFPに深く関与、実プロジェクト担当の他、ナショナルコンタクトポイントの立ち上げも行った。現在は、JSTIにて国際戦略策定及び実施、特に欧州諸国との連携促進に携わる。



トム・クチンスキ : 駐日欧州連合(EU)代表部 科学技術部 科学技術アドバイザー

ポーランド出身。経済学博士(広島修道大学)。2006年より2012年まで在日ポーランド大使館一等書記官として科学、工学、イノベーション、エネルギー、気候変動問題を担当。2012年から駐日EU代表部にて科学技術部のアドバイザーとして日EU間での連携研究を担当している。



白川 芳幸 : 早稲田大学 研究戦略センター 教授

東京工業大学理工学研究科電気・電子工学修了、新日本製鐵入社、英国ハーウエル原子力研究所留学、その後、福井大学工学部電子工学科に転職、続いて科学技術庁放射線医学総合研究所(現量子科学技術研究開発機構)で放射線計測の研究、放射線教育に従事、神戸大学を経て、現在、早稲田大学研究戦略センター教授、特に国際共同研究の企画推進を担当、博士(工学)



磯部 靖博 : 広島大学 研究企画室 URA

広島大学工学部出身。約10年の大学職員での経験及び弁理士の取得を機に2012年11月からURA業務を始める。山口大学URA室では、研究力分析(論文分析)に従事。2014年4月から広島大学研究企画室(URA本部)において、大学改革関連、大型研究プロジェクト申請及び国際連携業務(EARMA等)に従事。専門は知的財産全般及び生化学。「つなぐこと」を意識し、URA(研究・国際)と弁理士(知財)の融合した研究支援専門職を目指す。



鈴木 環 : 京都大学 学術研究支援室(URA室) URA (国際連携)

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科(環境デザイン)修士課程修了、博士課程単位取得満期退学、パリ大学第一大学院留学。(独)国立文化財機構 東京文化財研究所文化遺産国際協力センター・特別研究員(2008年~2013年)、国際協力機構(JICA)専門家(2014年)を歴任し、西・南アジア・欧州の文化遺産国際協力事業に携わる。2014年より現職、京都大学欧州拠点の運営に携わり、欧州との国際共同研究支援を中心に担当。